

第6節 農業技術指導・教育

1. 農業技術の普及指導体制

農業技術浸透事務室および技術指導農場

食糧増産は戦中から戦後にかけての重大問題であったが、終戦直前の昭和20年7月、「農業技術浸透方策」が当時の農政担当者の手で立案された。この対策は終戦後若干の修正を加えて「農業技術浸透方策要綱」としてまとめられ、農政局が中心となって畜産局、全国農業会、農事試験場などがこれに加わり、昭和21年1月農政局長の知事あて通達によって発足した。

目的は農事試験場で確立した新しい技術の地域的確認を中心に新技術の圃場展示を行うと共に、農会技術員を中核に農業学校・青年学校教員、食糧検査員、実践班などの技術を練磨することにあつて、そのために農事試験場に「農業技術浸透事務室」を設け、地区には5か町村に1個所の割合で「農業技術指導農場」を設置した。指導農場の総括事務は技術浸透事務室で行い、これらは農務課の所管であつたが経営の主体は農事試験場で人事、雇用権も農事試験場長にあつた。しかし運営は農事試験場と県農業会との共同で行われ、職員 の身分は農業会に属し、人件費は国の補助を受け、それが支出すると言つた複雑なかたちであつた。技術浸透事務室の職員は横山と美行主任、寺尾美之、谷勇(現野々村)、三木信夫(現以西)の各氏と女子職員1名であつた。また指導農場は農場長に農会技術員幹部が発令され、他に畜産技術員、それに農場によっては農会技術員の計2,3名の職員構成であつた。指導農場の事務所はほとんどが町村農業会や役場内に間借りし、独立した事務所が建てられたのは赤河内農場1か所だけであつた。指導農場の設置地区、圃場面積および主な目標は次のとおりである。

第12表-1 指導農場の概要

設置地区	設立年度	所在地	面積		
			田(反)	畑(反)	計(反)
南井上	昭和20年	名東郡南井上村	28,618	2,224	30,912
小松島	〃	勝浦郡小松島町	2,024	0.200	2,224
羽ノ浦	〃	那賀郡羽ノ浦町	32,222	—	32,222
富岡	21	那賀郡富岡町	31,600	4,500	36,100
新野	〃	那賀郡新野町	30,325	—	30,325
赤河内	20	海部郡赤河内村	22,000	3,000	35,000
高原	〃	名西郡高原村	28,000	2,000	30,000
神領	21	名西郡神領村	26,024	3,906	30,000
北島	〃	板野郡北島町	27,318	9,427	36,815
藍園	20	板野郡藍園村	27,718	3,000	30,718
一条	21	板野郡一条町	20,000	10,000	30,000
市場	20	阿波郡市場町	13,521	20,816	34,407
伊沢	21	阿波郡伊沢村	18,026	14,020	32,116
牛島	20	麻植郡牛島村	30,000	10,000	40,000
川田	21	麻植郡川田町	51,506	2,500	52,006
脇	20	美馬郡脇町	36,410	5,509	41,919
西祖谷山	21	美馬郡西祖谷山村	29,701	5,018	34,719
三庄	20	三好郡三庄村	27,000	3,000	30,000

第12表-2 指導農場町村及び実践班数

農場名	関係町村名	実践班数
南井上	国府、南井上、北井上、新居	88
小松島	小松島、勝占、多家良	103
羽ノ浦	羽ノ浦、立江、坂野、今津、平島	107
富岡	富岡、見能林、中之島、宝田、長生、大野、加茂谷	151
新野	新野、橘、福井、椿、桑野	115
赤河内	赤河内、日和佐、牟岐、三岐田、阿部	60
高原	石井、浦庄、高川原、高原、藍畑、高志	144
神領	入田、阿野、鬼籠野、神領、下分上山、上分上山	132
北島	北島、堀江、大津、松茂、川内	161
藍園	応神、住吉、藍園、板東、板西	121
一条	松島、御所、大山、一条、松坂、栄	135
市場	土成、柿島、八幡、市場	108
伊沢	大俣、久勝、伊沢、林	108
牛島	牛島、鴨島、森山、西尾、川島	103
川田	川田、山瀬、木屋平、中枝、三山、東山、学島	150
脇町	江原、脇、岩倉、穴吹、口山、古宮、三島	175
西祖谷山	西祖谷山、東祖谷山	70
三庄	三野、足代、昼間、三庄、加茂、辻、井内谷	180

各指導農場の主な目標

1)南井上

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②畜力利用の高度化と機械力の導入。
- ③小家畜の導入による経営の多角化と農業生産力の向上。
- ④そ菜、特に大根の耕種改善とその加工。

2)小松島

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②家畜の導入による経営の多角化。
- ③畜力、電力利用の高度化。
- ④山村地帯の果樹(柑橘、柿、栗)の栽培奨励。

3)羽ノ浦

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②畜力、機械力の導入による労働生産力の向上。
- ③乳牛の導入による経営の多角化。
- ④自給飼料の増産。

4)富岡

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②乳牛、小家畜の導入による経営の多角化。
- ③そ菜、果樹の優良品種の普及。
- ④柑橘病虫害の防除指導。
- ⑤畜力、機械力利用の高度化。

5)新野

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②自給飼料増産による土地生産力の向上。
- ③小家畜の導入による経営の多角化。
- ④農産物の加工利用。

6)赤河内

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②家畜の導入による経営の多角化。
- ③山村開墾地における柿、栗、柑橘の奨励。
- ④乳牛の導入による酪農の奨励。

7)高原

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②乳牛の導入による経営の多角化。
- ③畜力利用の高度化と機械力の導入。
- ④小家畜の普及と奨励。

8)神領

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②山村田畑経営の合理化。
- ③黒牛、小家畜の増殖による経営の多角化。

9)北島

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②耕種作業の共同化。
- ③畜力利用の高度化と機械力導入による労働生産力の向上。
- ④自給肥料の増産による土地生産力の向上。

10)藍園

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②そ菜特に大根の栽培改善とその加工。
- ③小家畜、乳牛の導入による経営の多角化。
- ④畜力利用の高度化。
- ⑤緑肥栽培等による自給肥料の増産。

11)一条

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②畜力、機械力の導入による労働生産力の向上。
- ③自給肥料の増産による土地生産力の増強。
- ④小家畜導入による経営の多角化。

12)市場

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②畑作経営の合理化。
- ③小家畜の導入による経営の多角化。
- ④乳牛導入による酪農の振興。

13)伊沢

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②有畜農業の奨励(乳牛、豚)。
- ③自給肥料の増産と畑作の経営改善の合理化。
- ④製粉、製麺等加工奨励。
- ⑤果樹の栽培奨励(柿、栗)。

14)牛島

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②乳牛、小家畜の増殖による経営の多角化。
- ③機械の導入による労働生産力の向上。
- ④自給肥料の増産。

15)川田

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②家畜の導入による経営の多角化。
- ③自給肥料の増産による土地生産力の向上。

16)脇

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②有畜農業の普及奨励。
- ③山村地帯における果樹の栽培奨励(柿、梅)。

17)西祖谷山

- ①主要作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②畑作経営の合理化。
- ③家畜の導入による経営の多角化。

18)三庄

- ①主要食糧作物の増産に関する実践技術の確立と農家の耕種技術水準の向上。
- ②家畜の導入による経営の多角化。
- ③自給肥料の増産による土地生産力の向上。

農業技術浸透方策は上記のような組織、体制で進められていたが、この方策は州立大学を中心に教育、試験研究、普及を一元的に運用していた米国の普及事業との間に大きな隔りがあった。当時の米国におけるこの普及事業の体制はわが国の到底真似できるものではなかったが、それは別としてもこの技術浸透方策はGHQの考え方に添ったものではなかったために、昭和23年3月、GHQ天然資源局のスケンク局長と永江農林大臣との会談の結果、この施策は同年4月末日をもって打切ることになり、8月には農業改良助長法の制定によって新しい協同農業普及事業が発足した。GHQの指導農場廃止のおもな理由は(1)利用が近隣農家に限定される。(2)経営主体が農事試験場で試験研究の延長である。(3)統制事務に関与し純粋な技術指導でない。(4)指導が一方的で農民の自主制によるものでない。(5)解散を指令されている農業会が事業主体である、などであった。

指導農場の廃止後は同一地区に農業改良普及事務所が置かれたところが多く、技術浸透事務室の職員は県職員となって、新設の農業改良課本務となった。また技術指導農場の職員のはほとんどは食糧増産技術員に振り替えられ、のち資格を取得して農業改良普及員になった。

2.教育・指導機関

昭和20年8月の終戦に伴ない政府はGHQの指令により、憲法が改正され、あらゆる部門において軍国主義、封建制打破のために新しい施策を講じた。農政部門においても農地改革を筆頭に、農業会を解散して農民を組合員とする民主的な農業協同組合が設立(昭和22年)された。

農業指導においても、農業改良助長法に基づく農業改良普及事業(昭和23年)が発足した。

(1)徳島県立農業講習所

戦前からの徳島県立農業技術員養成所は、新しく発足した農業改良普及員制度に即応すべく、昭和24年4月から2年制の徳島県立農業講習所(県規則第28号)として発足した。

教科目も農業技術部門ばかりでなく、社会学、教育学、経済学などの基礎教養科目が取り入れられ、新しく農民心理学、農村社会、普及一般、青少年クラブ、農村生活など農業改良普及活動に必要な科目と実習が付け加えられた。

(2)徳島県立農事試験場練習生

昭和6年に精農家養成の目的で、高等学校卒業者を対象に1か年間教育していたが、戦後も引続き新制中学卒業者を1か年間教育することになり、昭和40年徳島県農業高等学校の発足に伴ない、農業分校実科(高等課程)へと引継がれていった。

(3)徳島県たばこ耕作技術員養成所

戦後数年を経て食糧難も緩和し、嗜好品であるタバコの需要も次第に増加し、水田輪作体系にも組み入れられるようになったが、県西部では古くから栽培されていた阿波葉は、逆に需要が減少し黄色種に切り替えの方針が立てられ、同品種を中心とした栽培技術習得のためのタバコ耕作技術員の養成が急務となり、昭和26年(県規則35号)から農事試験場池田分場で養成が開始された。しかし、昭和40年になって徳島県農業大学の発足に伴ない特用作物分校実科(専修課程)へ引継がれた。

(4)徳島県農業大学校農業分校特用作物分校

戦後の食糧難時代から朝鮮動乱終結後の昭和30年後半からの日本経済は飛躍の伸びを見せ「神武景気」などと言われたが、昭和32年、33年の「鍋景気」を乗り越えて昭和33年秋頃からは再び「岩戸景気」と経済成長が続いた。鉱工業を中心とした他産業の発展は、農村から労働者を吸収し、農家の次、3男対策も一気に解消した。岩戸景気時代には新中卒者は「金の卵」とさえ言われ、農村の若手人口は急速に工業都市へと流出していった。

ふりかえって、農村においては昭和30年当初から「農業の曲り角」論が問題視されていたが、政府はこれからの農業の指針として昭和32年に「農林水産業の現状と問題点」(農林白書)を次いで「農林水産政策要綱」を発表し、日本農業の生産基盤の整備と営農改善を強調した。そして昭和36年6月には「農業基本法」(法律第127号)が設定され、国の農業長期計画が明示された。農家としてはこの長期計画に明るい未来を見出し、特に果樹畜産部門に目が向けられ、また農地の基盤整備事業も大型作業機械を駆使することにより、10年後の目標が数年にして達成することになった。

このような状況下において、徳島県はいち早く農業改良普及員、中堅農業技術者および資質の高い農業後継者の養成のあり方について、徳島県はこれまで見直し、旧来の農業講習所を発展的に解消して、昭和41年3月徳島県農業大学校を設置(県条例第1号)し、新しい農業指導者の養成に当たったのである。

設立当初は農業試験場の旧農業講習所の施設を利用したが、昭和42年3月石井町石井85番地の県有地11.7㌔に建設竣工した新校舎ならびに施設で授業を開始した。

農業試験場においては本校に農業分校(実科)池田分場には特用作物分校(実科)が設置され、それぞれ授業が開始された。

文 献

福井村史編集委員(1956):福井村史

徳島県(1961):徳島県の農業

徳島県史編さん委員会(1967):徳島県史第6巻

徳島県(1967):農業構造改善事業の概要

全国構造改善協会(1969):第2次農業構造改善事業促進対策関係通達集

徳島県農協20年史編纂委員会(1970):徳島県農協20年史

日本農業研究所(1971):戦後農業技術発達史(総括編)

徳島県(1972):とくしまの花

穴戸寿雄(1974):農業と経済、40(4)

徳島県(1974):徳島の野菜(昭和48年実績)

徳島県(1976):徳島県における米生産調整および稲作転換の記録

頼平(1976):農業と経済、42(10)

徳島県(1978):農業改良普及事業30周年記念誌

徳島県(1978):水田利用再編対策実施要綱及び同実施要領等

徳島県(1979):加温施設園芸における省エネルギー技術指導資料

徳島県果樹試験場上板分場(1979):上板分場30年のあゆみ

農林水産省百年史編纂委員会(1981):農林水産省百年史、下巻

農林水産省百年史編纂委員会(1981):農林水産省百年史、別巻

徳島県・徳島県植物防疫協会(1981):徳島の植物防疫